

教育研究業績書 ～作成上の注意について～

*教育上の能力に関する事項について

1 教育方法の実践例

大学・短期大学・大学院などの高等教育機関において授業科目を担当し、学生の理解を図るため、工夫を凝らした分かりやすい授業を実施している場合、その内容を記載する。

(例)・ICT 等を活用した授業方法

- ・学生の授業外における学習効果促進のための取組
- ・授業内の WEB 上での公開

2 作成した教科書・教材

学生の理解を図るために作成し、大学での授業や教職指導などにおいて活用している教科書や教材等を記載する。また、本欄に記載した事項が「担当授業科目に関する研究業績等」にも該当する場合は、それぞれに記載する。

3 教育上の能力に関する大学等の評価

学生の理解を図るために行っている教育上の取組(大学での授業や教職指導などを通じた取組)に対して、大学等から特に高い評価を受けたものがあれば記載する。

(例)・各大学における自己点検・自己評価での評価結果

- ・学生による授業評価(FD アンケート)の結果、教員相互による評価結果

4 実務の経験を有する者についての特記事項

学校現場等で教育に関する取組の中で学生の理解を図ることに資するものがあれば記載する。

(例)・幼稚園、小学校、中学校、高等学校又は特別支援学校での教育実績(出前講座など)

- ・大学から受け入れた教育実習生等に対する指導

5 その他

学生の理解を図るために行っている取組のうち、上記に該当しないものを記載する。

(例)・大学教育改善に関する団体等での活動の概要

※各項目について特記事項のない場合は、「特記事項なし」と記載する。

* 職務上の実績に関する事項について

1 資格、免許

授業科目と関連のある教員免許等の資格、免許等を有している場合は記載する。教員免許等の資格を記載するに当たっては、その登録番号等も併記する。

2 学校現場等での実務経験

学校現場等において担当授業科目と関連のある実務経験(職歴)を有している場合は、「年 月」にその実務経験の年数を「概要」に時期、勤務先と主な職務内容等を記載する。なお、申請書作成時点において現職の場合は、時期に「(現在に至る)」と記入する。

3 実務の経験を有する者についての特記事項

学校現場等での教育に関する取組の中で授業科目と関連のあるものがあれば記載する。

また、本欄に記載した事項と関連して教育実践記録等を作成している場合は、「授業科目に関する研究業績等」にも併せて記載する。

(例)・研究指定校での教育課程の研究開発

- ・教員を対象とした研修等での講師の経験
- ・教育委員や学校評議会の委員等での経験

4 その他

授業科目と関連のある職務上の実績のうち、上記に該当しないものを記載する。

* 授業科目に関する研究業績等について

「著書、学術論文等の名称」欄

- 1) 授業科目に関連する研究業績について、(著書)(学術論文等)(教育実践記録等)(その他)の順で該当するものを記載する。
 - (著書)は、出版社を通して流通し、書店などにおいて販売されている書籍の書名を記載する。
 - (学術論文等)は国際学術雑誌、学会機関紙、研究報告等に学術論文として発表したものの題名を記載する。学位論文については、その旨を記載する。
 - (教育実践記録等)は、大学や教職員支援機構等での指導や研究会等での研究発表、校内研修での実践発表などにおける実践的・実証的研究成果の発表記録や著作等で活字化したもの(いわゆる「研究紀要」「研究集録」「研究レポート」「実践レポート」「教育論文」等)を記載する。
 - (その他)は、授業科目に関連する報告書や教育関係雑誌など、活字として発表し、広く世間一般に向けて刊行されている研究業績を記載する。

「単著共著」欄

- 1) 当該著書等に記載された著作者が 1 人である場合には「単」、著作者が複数で単独執筆ページがある場合は「共」と記載する。
- 2) (著書)の場合は、単独執筆の箇所がある場合であっても、著作者が複数の場合は「共」と記載する。
- 3) (学術論文等)(教育実践記録等)(その他)の場合は、当該論文等に係る単著・共著の別を記載する。
(掲載媒体の単著・共著ではない)

「発行年月」欄

- 1) 当該業績が活字として発行された年月を記載する。過去10年以内のものを記載する。

「出版社又は発行雑誌等の名称」欄

- 1) (著書)の場合は出版社を、(学術論文等)(教育実践記録等)(その他)の場合は掲載媒体の名称(巻・号を含む)を正確に記載する。

「執筆ページ数(総ページ数)」欄

- 1) 当該業績において本人が単独で執筆したページ数の合計を「執筆ページ数」欄に記載する。(具体的なページ番号は不要)
- 2) 単著・共著及び発行形態の別を問わず、当該業績の総ページ数と本人が執筆したページ数の合計が異なる場合においては、本人が執筆したページ数の合計に加えて、当該書籍又は学術論文、雑誌等の総ページ数を括弧書きで記載すること。(研究紀要などの論文集については、論文集の総ページ数ではなく当該学術論文の総ページ数を記載する)
- 3) 共同研究等により本人が執筆したページ数の合計が記載できない場合に限り、執筆ページ数の代わりに(抽出不可)と記載し、当該業績の総ページ数を括弧書きで記載する。

「概要」欄

- 1) 「概要」欄には、著書等の内容を 200 字程度の日本語で記載し、授業科目と特に関係する記述の箇所に下線を引く。なお、共著の場合は、当該業績全体の概要とは別に、本人が執筆した内容を記載する。

また、共著の業績は、「概要」欄に本人を含めた著者全員の氏名を漏れなく記載する(著者が非常に多数にわたる場合は、本人を含めた主要な著者の氏名及び著者の合計人数を「計〇名」と記載する)。その上で、本人の氏名に下線を引く。

- 2) 「執筆ページ数」欄に「抽出不可(総ページ数)」と記載した場合、当該著書等(学術論文の場合は当該論文)の執筆箇所において本人が果たした具体的な役割を「概要」欄の最後に記載する。

なお、役割が監修、編集、翻訳、執筆指導、発表、実験データ提供など、本人が当該著書等を直接執筆していないものは本人の活字業績とみなすことができないため、この場合は「教育上の能力に関する事項」又は「職務上の実績に関する事項」欄に記載する。

以上